

熊本地震からの復活を果たした大豆栽培

農事組合法人 秋津営農組合

熊本県熊本市

設立年月 平成25年

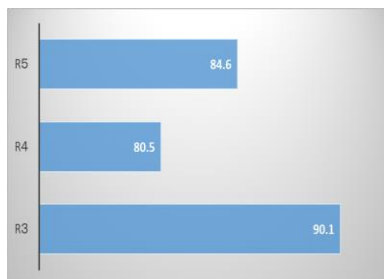
構成農家 142戸

基幹作物 大豆84.6ha(品種名:フクユタカ、すずおとめ)、水稻77.0ha、麦類133.2ha

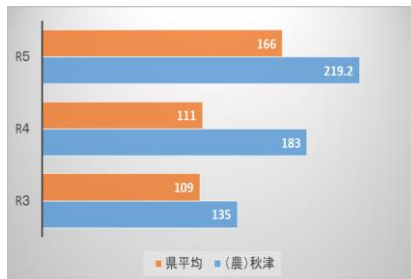
特徴 給排水設備の被災によって水稻を含めたブロックローテーションができなくなり、大豆と小麦の連作になったこと、地震後のほ場整備による土壌環境の変化で収量が低下したが、地道な努力により県平均単収を上回るまでに復活した。

大豆生産状況

面積 (ha)



単収 (kg/10a)



上位等級比率 (%)



栽培上の特色

● 多収化と高品質生産

実需からの要望に応えるため2品種の大豆を栽培しており、早生の「すずおとめ」を先に播種することで生育量及び収量の確保に努め、併せて「すずおとめ」の早期播種により「フクユタカ」との収穫時期の差を明確にし、適期作業を徹底することで異品種混入を防いでいる。

● 省力化と生産コスト減

開花期以降の乾燥対策として、パイプ配水のため畝間かん水には莫大なコストがかかることから、完全なブロックローテーションによる作付けほ場の集約状況と本暗渠を活用し、仮設の堰で排水路の水位を上昇させることで暗渠逆流によるかん水を行っている。

その他特徴的な取り組み

● 熊本地震への対応

熊本地震前からブロックローテーションに取り組んでおり、地震被災際にも復旧工事は行政側との協議を行い、ブロックローテーションの状況に合わせてほ場整備を行うことで営農活動への影響を最小限に抑えた。

給排水設備の被災によって水稻を含めたブロックローテーションができなくなり、大豆と小麦の連作になったこと及びほ場整備による土壌環境の変化で作物の収量が低下していた。ブロックローテーション再開と併せて熊本市の堆肥センターの協力で堆肥の投入を行うことで地力向上に努め、近年では大豆の単収は県の平均単収を上回る傾向にある。